

2021年6月期 第2四半期 決算補足資料

2021.2.12

日本工営株式会社

IRに関するお問い合わせ： 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 c-com@n-koei.co.jp

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。

2021年6月期 第2四半期実績

生産性向上・コスト抑制により営業利益・経常利益は赤字幅縮小、堅調に推移。
進行基準適用も3月末に売上・利益計上が集中する傾向は依然継続。

(単位:百万円)	2020.6期 第2四半期 実績	2021.6期 第2四半期 実績	前年同期比	
			増減	比率
受注高	58,395	51,796	△6,598	88.7%
売上高	49,148	46,675	△2,472	95.0%
売上総利益	12,700	13,392	691	105.4%
営業利益	△1,427	△18	1,408	-
経常利益	△1,185	△426	758	-
親会社株主に 帰属する四半期純利益	△910	△2,461	△1,550	-

2021年6月期 上期の要点

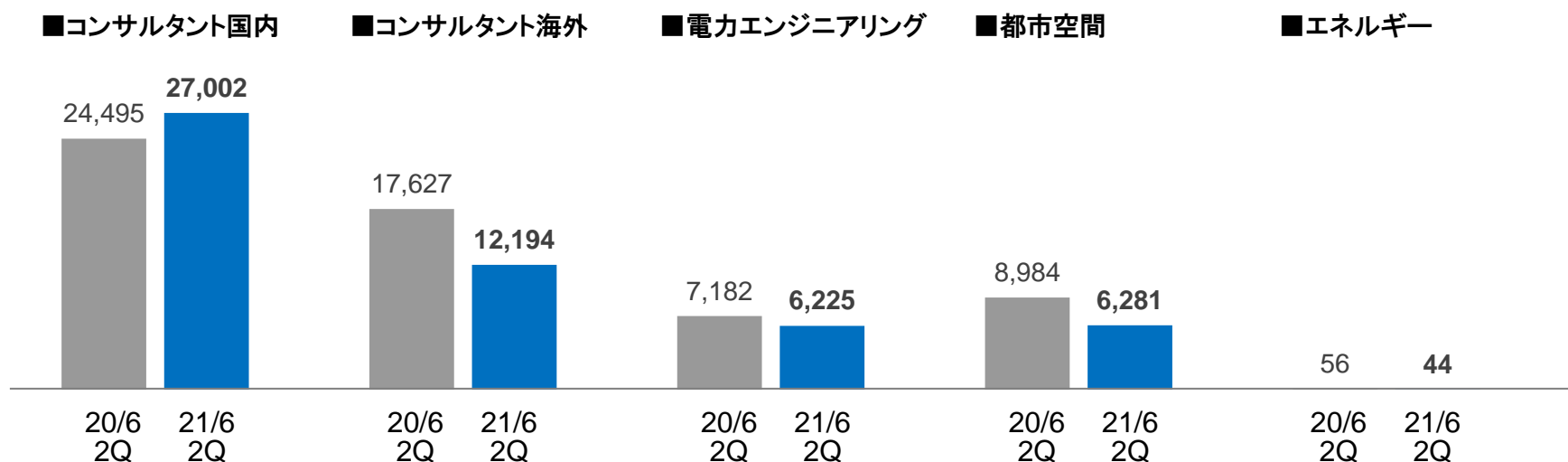
- コンサルタント国内事業が好調に推移し業績牽引
- 電力エンジニアリング事業の赤字案件による工事損失引当金を計上したものの、コンサルタント国内事業の内製化進捗等で営業利益・経常利益は赤字幅縮小
- インドネシア国の水力発電計画に係る特別損失約18億円により純利益は赤字幅拡大

新型コロナウイルス影響

- 売上高影響額：通年で約90億円を想定
- 渡航制限は解除されつつあり、コンサルタント海外は業績回復傾向
- 欧州ロックダウンの状況下でもBDP社・Quadrangle社(都市空間事業)は堅調

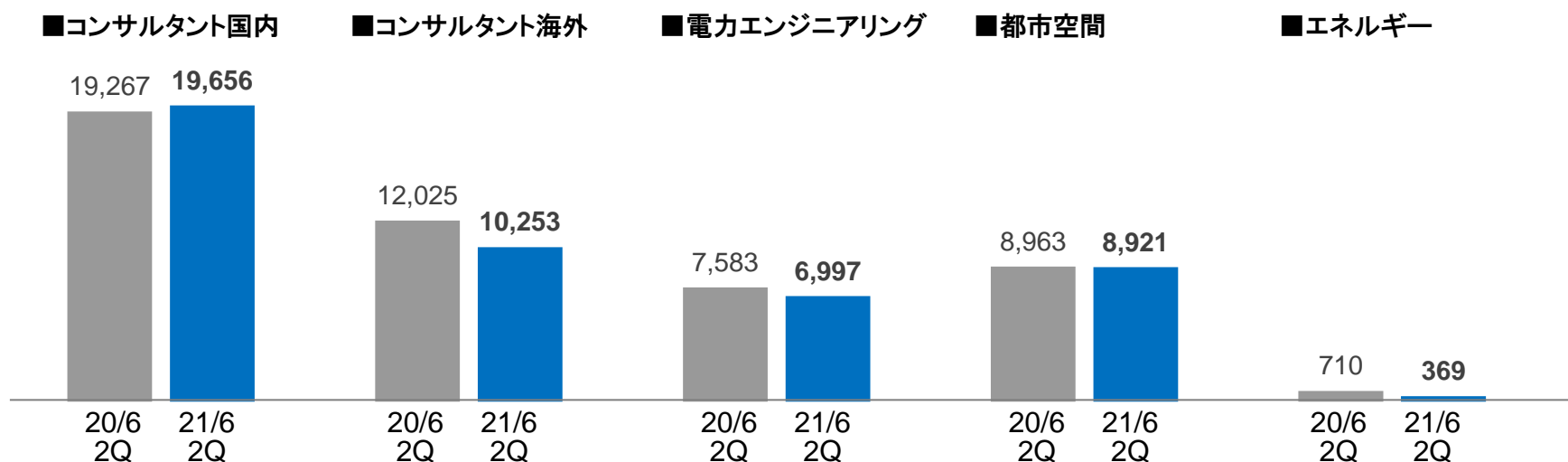
セグメント別実績（受注高）

（単位：百万円）	2020.6期 第2四半期 実績	2021.6期 第2四半期 実績	前年同期比	
			増減	比率
受注高	58,395	51,796	△6,598	88.7%
コンサルタント国内	24,495	27,002	2,506	110.2%
コンサルタント海外	17,627	12,194	△5,433	69.2%
電力エンジニアリング	7,182	6,225	△957	86.7%
都市空間	8,984	6,281	△2,702	69.9%
エネルギー	56	44	△11	78.9%



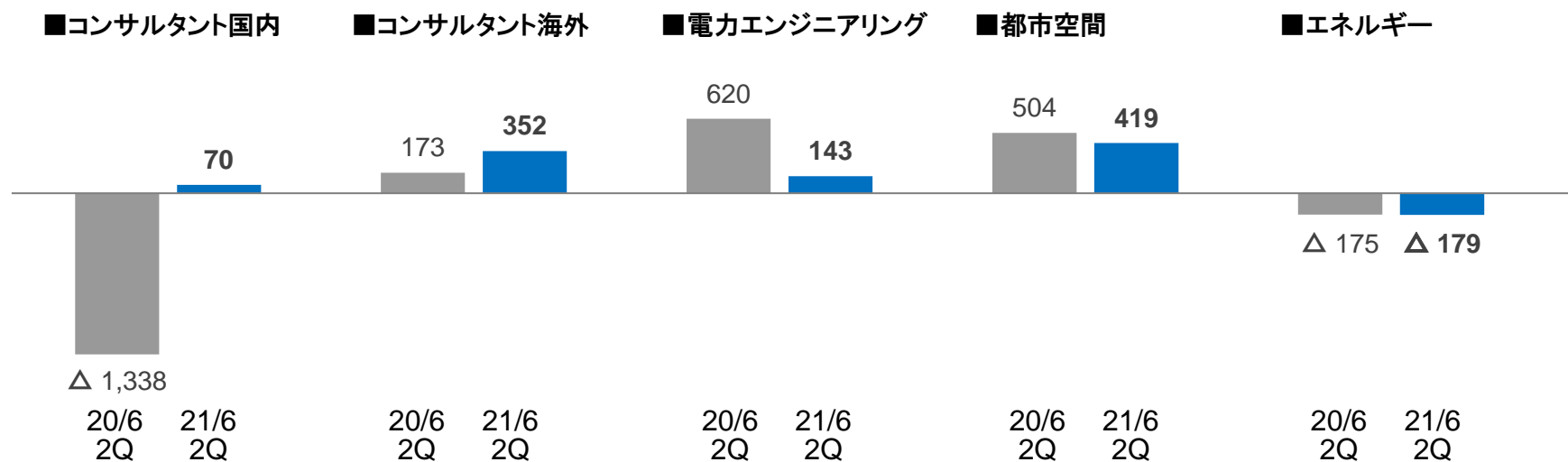
セグメント別実績（売上高）

(単位:百万円)	2020.6期 第2四半期 実績	2021.6期 第2四半期 実績	前年同期比	
			増減	比率
売上高	49,148	46,675	△2,472	95.0%
コンサルタント国内	19,267	19,656	388	102.0%
コンサルタント海外	12,025	10,253	△1,772	85.3%
電力エンジニアリング	7,583	6,997	△585	92.3%
都市空間	8,963	8,921	△42	99.5%
エネルギー	710	369	△340	52.1%
不動産他	597	477	△119	79.9%



セグメント別実績（営業利益）

(単位:百万円)	2020.6期 第2四半期 実績	2021.6期 第2四半期 実績	前年同期比	
			増減	比率
営業利益	△1,427	△18	1,408	-
コンサルタント国内	△1,338	70	1,409	-
コンサルタント海外	173	352	179	203.8%
電力エンジニアリング	620	143	△476	23.1%
都市空間	504	419	△85	83.1%
エネルギー	△175	△179	△3	-
不動産・全社	△1,211	△826	385	-



セグメント別概況

コンサルタント国内事業

- 受注高は、国土強靱化計画の推進などの良好な受注環境を背景に前年同期比+10%と好調
- 売上高は、受注案件の順調な進捗により増収
- 営業利益は、内製化によるコスト削減などの生産性向上施策が奏功し、黒字転換

コンサルタント海外事業

- 受注高は、大型案件の受注があった前年同期と比較し反動減
- 売上高は前年同期比減収も、2Qで稼働状況は改善傾向
- 営業利益は、渡航費等のコスト抑制、子会社の体質改善が寄与し増益

電力エンジニアリング事業

- 受注高は、大型案件の期ずれにより前年同期で下回る
- 売上高は、日本国内のコロナウイルス影響は少ないものの、オリンピック延期による工期一時中断延長、1Q時点での海外のプラント関連案件の作業進捗が滞り、前年同期比で減収
- 営業利益は、売上減および工事損失引当金計上により減益

セグメント別概況

都市空間事業

- 受注高は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注案件の小ロット化や契約手続き遅延が発生し、前年同期を下回る
- 売上高は、BDP社のテレワーク業務推進、今期の組織改編によるコンサルタント国内事業から都市空間事業への都市開発部門への移管により前年同期並み
- 営業利益は、BDP社の売上減による粗利減により減益

※ 2021年6月期2Q実績レート 1㌦=138.04円（2021年6月期計画レート 1㌦=136.23円）

※ 都市空間事業の2021年6月期償却費 約7億円（のれん：約4億円、その他無形固定資産：約3億円）

エネルギー事業

- 受注高は、予定していた欧州蓄電池関連プロジェクトの受注遅れにより前年同期を下回る
- 売上高は、英国蓄電池事業のEPC(受変電設備、据付他建設工事)が完工した前年同期と比較し減収
- 営業利益は、売上減により赤字幅拡大

2021年6月期見通し 修正内容

「コロナ影響無しと想定した場合の目標」に邁進した結果、**上方修正**

(単位:百万円)	期首計画(日本基準) ()内は前期差、前期比		修正後 予想(日本基準) ()内は前期差、前期比
受注高	104,900 (▲36,732、▲25.9%)	+13,400	118,300 (▲23,332、▲16.5%)
売上高	102,600 (▲9,614、▲8.6%)	+15,000	117,600 (+5,385、+4.8%)
営業利益	1,500 (▲3,090、▲67.3%)	+3,400	4,900 (+309、+6.7%)
当期純利益	500 (▲2,226、▲81.7%)	+800	1,300 (▲1,426、▲52.3%)
期首前提・修正理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナ影響が最大の状況が期中1年間継続すること(最悪シナリオ)を想定 ● 本計画を必達ラインとし、コロナ影響無しと想定した場合の目標を追求 		<ul style="list-style-type: none"> ▲ コンサルタント国内事業が下期も順調継続見込み ▲ コンサルタント海外事業の現地作業再開 ▼ インドネシア国の水力発電計画に係る特別損失約18億円により純利益に影響

2021年6月期見通し（2/12修正）

（単位：百万円）	2020.6期 実績※	2021.6期 計画（日本基準）	前期増減	前期比率	2021.6期 計画（IFRS）
受注高	141,632	118,300	△ 23,332	83.5%	118,200
コンサルタント国内	56,184	56,900	715	101.3%	56,900
コンサルタント海外	47,508	29,100	△ 18,408	61.3%	29,100
電力エンジニアリング	19,829	15,500	△ 4,329	78.2%	15,400
都市空間	17,874	16,600	△ 1,274	92.9%	16,600
エネルギー	156	200	43	127.4%	200
売上高	112,214	117,600	5,385	104.8%	117,600
コンサルタント国内	51,333	53,700	2,366	104.6%	53,700
コンサルタント海外	24,508	26,000	1,491	106.1%	26,000
電力エンジニアリング	15,747	16,900	1,152	107.3%	16,900
都市空間	18,160	19,300	1,139	106.3%	19,300
エネルギー	1,187	900	△ 287	75.8%	900
不動産他	1,276	800	△ 476	62.7%	800
営業利益	4,590	4,900	309	106.7%	4,600
コンサルタント国内	5,227	5,500	272	105.2%	5,000
コンサルタント海外	684	1,300	615	190.0%	1,300
電力エンジニアリング	1,069	1,000	△ 69	93.5%	1,000
都市空間	917	700	△ 217	76.3%	1,200
エネルギー	△ 383	△ 500	△ 116	-	△ 1,400
不動産・本社	△ 2,924	△ 3,100	△ 175	-	△ 2,500
経常利益（IFRSは税引前利益）	4,603	5,400	796	117.3%	4,200
親会社株主に帰属する当期純利益	2,726	1,300	△ 1,426	47.7%	2,000
営業利益率（%）	4.1	4.2			3.9
ROE（%）	4.6	2.1			3.2

※2020年12月14日の修正を反映済み